2024/10/7

＜金標準、日米欧の金融政策の違いで円安相場の上昇・・＞

（出所：オアシス）

パウエル FRB 議長は全米企業エコノミスト協会の年次会合で「この先、経済がおおむね想定通りに進展すれば、政策は時間とともにより中立のスタンスへと移行するだろう」と語り「時間とともに」FF レート誘導目標を引き下げていくと表明し、またラガルド ECB 総裁は、ブリュッセルの欧州議会で「インフレ率は第 4 四半期に一時的に加速する可能性がある」と述べながら利下げに対して「10 月の次回政策会合で、それを考慮に入れる」と明言するなど、FRB の利下げ後退に ECB は利下げを示唆するなどドル高の予兆を見せている。また石破総理は植田日銀総裁との会合後に金融緩和の継続を言及するなど円相場は円安の動きを強め、週末には雇用統計を受け 11 月の 0.5%の利下げ確率が後退すると、円ドルは一時 149 円台を試すなど円安相場に比例し、金標準先物は一代高値を更新し 12773 円まで上昇を見せている。特に今週は中国の国慶節が終わり市場へ投資家が戻る事を考慮すると更なる高値を試す可能性は高まると思われる。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI では短期が下げ止まりながら、長期は上昇している。ただ 10 日移動平均線を日足が上回り上昇を示すも 40 日移動平均線との乖離が拡大しており、買われ過ぎには注意が必要と思える。

2024/10/7

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,302,000 円(2024 年 10 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 10 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30～17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp